

1 3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自ら考え自己表現ができる 当たり前のことを当たり前にできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>
確かな学力の育成	自ら課題を解決する力 の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> <li>・新学習指導要領に沿った授業改善を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> <li>・新学習指導要領に沿った授業改善を進める。</li> </ul>
豊かな人間性を育む	命を大切に 方を認める し多様な生き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>
健康・体力の増進	運動が好き という生徒の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング(準備運動やランニング、筋力トレーニング)を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング(準備運動やランニング、筋力トレーニング)を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング(準備運動やランニング、筋力トレーニング)を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>
支 援 教 育 の 充 実				

## 2

## 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

## 〇●国語●〇

## 国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと  
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと  
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと  
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項  
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった
- ② 短答式  
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・「一文を書き加える際助言を基に自分の表現を見直す」「文章の構成を工夫してわかりやすく書く」問題について全国平均を上回っているが、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」は全国平均を下回っている。

## 国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと  
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと  
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと  
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項  
大変良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった
- ② 短答式  
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式  
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題について全国平均を上回っているが、「目的に応じて必要な情報を読み取る」は全国平均を下回っている。

## 分析

全体の正答率は、概ね良好である。

領域別について、「書くこと」「言語事項」においては大きく上回っているが、「話すこと・聞くこと」については正答率は若干低い。

問題形式について、B問題では「記述式」の正答結果が全国平均を上回っており、自分の考えを書く力をもっていることがわかる。しかしながらB問題の「選択式」「短答式」が全国平均よりも若干低い。

# 〇●数学●〇

## 数学A

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・「分数の乗法・加減乗除を含む計算のきまり」などの計算問題や「直方体において、与えられた辺に平行な面を書く」問題について全国平均を上回っているが、「 $\triangle ABC$ を、点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかく」は全国平均を下回っている。

## 数学B

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・「与えられた式から、 $a$ の変域に対応する $b$ の変域を求める」「2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を使って求める」問題について全国平均を上回っているが、「6角形を5個作るために必要なストローの数を求める」「1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める」は全国平均を下回っている。

## 分析

A問題について、「数と式」「図形」の領域では全国平均を上回る正答率をあげ、「関数」「資料の活用」の領域では、全体的に全国平均とほぼ同程度の正答率をあげている。計算力や証明問題はよくできているが、「図形」の作図の問題では課題が見られた。作図の体験不足と推測できる。

B問題については、「図形」「関数」の領域に関しては、正答率は全国を上回っているが、「資料の活用」の正答率は全国平均を下回っている。

グラフを描いたり、グラフの読み取りや三角形の合同の証明などはよくできている。

## 〇●経年比較●〇

### 全体的な傾向についての分析

この10年間、数学 AB 国語 AB とも正答率は年度によって上昇下降が繰り返されている。  
数学 AB については全国平均より高い水準を維持している。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

この10年間、学力高位層・低位層ともに年度によって上昇下降を繰り返している。  
特に数学 B の学力高位層は高水準を維持している。

## 〇●取組み●〇

### 学力向上に関する取組み

#### <国語科>

- ◎国語に関する基礎的な力はある。故事成語、慣用句等の語句知識の学習は継続して適宜課題として与え、定着を図っていく。
- ◎短答式の問題の正答率向上のため、授業形態を工夫し、授業での発問の答えを文章で書くようにしていきたい。加えて、授業の中で、作文や資料読み取りの指導を進めるとともに、一步進んで、他の生徒の前で自分の考えを発表させるような形式の授業にも積極的に取り組んでいきたい。コミュニケーション能力が問われている昨今では話し合いや討論の基礎的な手立てなども丁寧に指導していく必要がある。
- ◎感想文等自分の考えを文章表現する力はある。今後は意見文等文章の展開の型などもふまえて記述する指導をしていきたい。

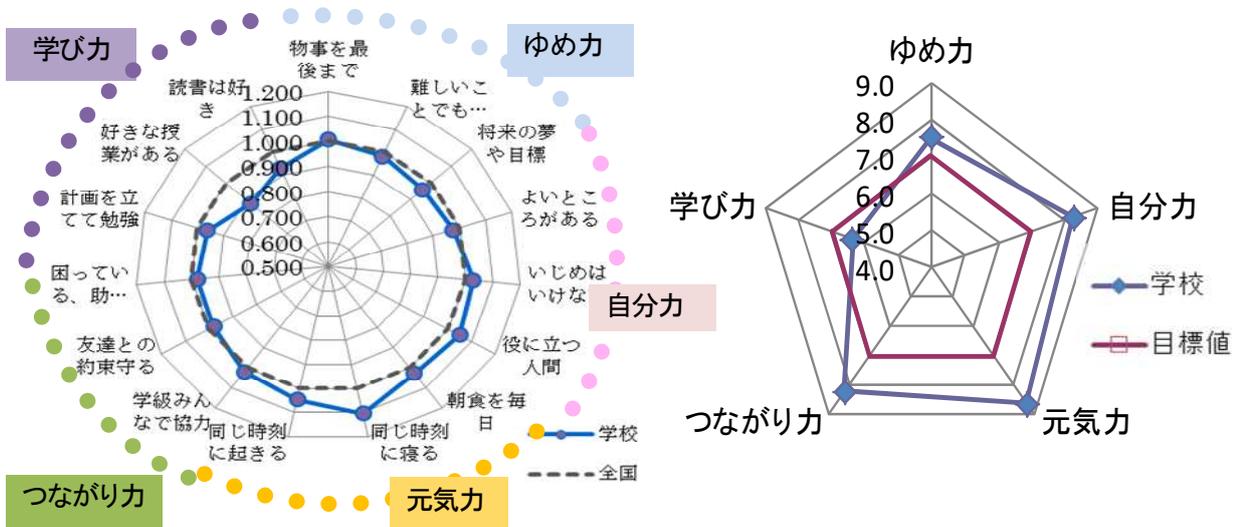
#### <数学>

- ◎授業形態を問わず、身に付けた知識を根拠や意味の理解にまで掘り下げていき、横断的に活用していくことができる知識として発展・定着させていきたい。そのために小テストを各単元で行い、生徒たちの理解をこまめに確認する必要がある。
- ◎知識を伝達するだけの講義型授業ばかりに偏るのではなく、自ら考え課題を解決していく問題解決型の授業も盛り込んでいく。
- ◎「図形」や「関数」領域では、授業中の活動の少なさ、説明などへの偏りによってグラフの書く手順や、作図の方法などを定着させるまで行きつかないまま進んでしまうことがある。数学的な操作や活動を多く取り入れていくための準備（教材研究）を進めるとともに教科内での交流も積極的に行っていく。合わせて、ICT機器の活用により想像力を刺激していくこと、班学習を充実させ生徒間でのコミュニケーションを通して学習活動の練り上げ、この2点から生徒たちの活動、学びにつなげる。
- ◎また、記述式での無解答率の高さを低くするためには、多様な考え方を身につける必要がある。自分の考えや意見を発表する場を増やしていくこと、相手の考え方の違いを理解しようとする力を授業の振り返りや考察を書く機会を設けていくことで改善していきたい。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較

5つの力 目標値との比較



## 分析

- ◎【ゆめ力】「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」は全国平均を上回っているが、「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しますか」の設問では全国平均より下回る結果となり将来への展望に不安がみられる。
- ◎【自分力】「自分にはよいところがありますか」は全国平均を少し下回る結果で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の2つにおいては全国平均を上回っており規範意識は育っているが自己肯定感に課題が見られる。
- ◎【つながり力】「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか」の設問は全国平均を上回っており、「友達との約束は守りますか」「人が困っているときは、進んで助けますか」は全国値をやや下回る結果となった。
- ◎【学び力】「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」「学校で、好きな授業がありますか」「読書は好きですか」の3項目とも、全国平均を下回る結果であった。授業改善をさらに進める必要があると同時に『朝の読書』が、日常生活に根付いていないことがうかがえる。
- ◎【元気力】「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」3項目とも大きく全国平均を上回っている。基本的な生活習慣が身につけている。

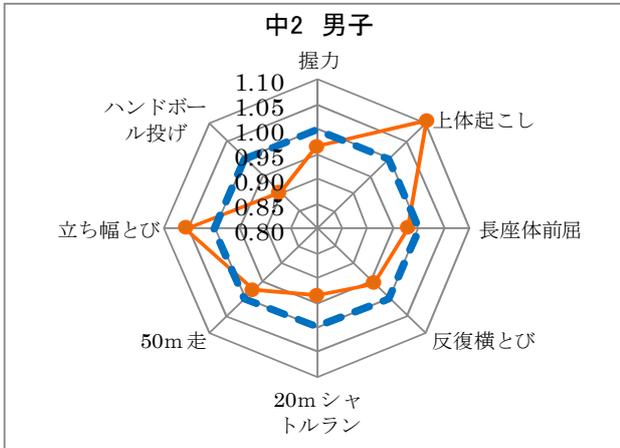
## 取組み

- 各教科の授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つという意識づけを行い、学習意欲の向上へつなげていく。
- 授業で学習したことを復習する習慣をつけさせる。基礎学力の定着のため、まずは、家でふりかえりをするための教材、まとめをするための教材等を宿題として課すことで、家庭学習の時間を増やしていく。
- 全教職員が「茨木っ子版 授業スタンダード」・「大阪の授業 STANDARD」の内容を再確認し、それをベースにした「生徒が自ら考え、教え合い、学び合う」授業デザインの構築をすすめていく。
- 「総合的な学習の時間」のみならず、各教科の授業で生徒の間で話し合う活動、発表する活動などをふやしていく。
- 研究授業や様々な研修に参加し授業改善を進めていく。

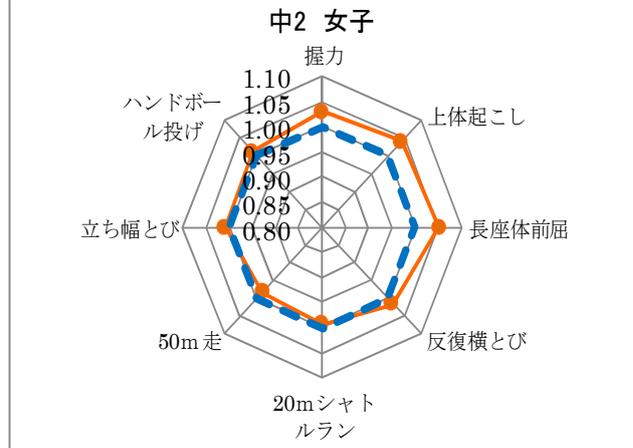
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

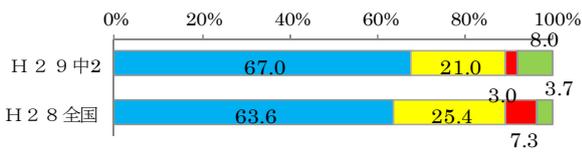
男子(中2)



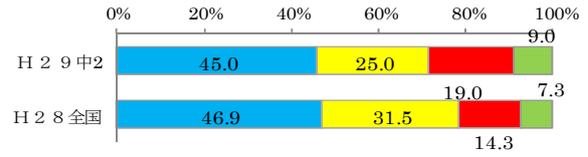
女子(中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

### 分析

男子は、「上体起こし」と「立ち幅とび」は全国平均を大きく上回っているが、その他は全国平均を下回っている。「運動・スポーツが好きですか」の項目は「好き」と答えている生徒は全国平均を上回っているが、「やや嫌い」、「嫌い」と答えている生徒は全国平均と同じである。

女子は、ほぼ全国平均と同じである。「握力」「上体起こし」「長座体前屈」は全国平均を上回っている。しかしながら、「運動・スポーツが好きですか」の項目は「好き」「やや好き」と答えている生徒は全国平均より8.4ポイントも低い。

体育系の部活動に参加している生徒が多いこともあり、授業では生徒が積極的に体力向上に取り組む姿勢がみられた。全国平均値から分析すると、授業を行う際も体育系の部活に参加している生徒とそうでない生徒との間に格差が広がっているように感じている。今後、数値を上げていく取組みとして、ランニングや筋力トレーニングを丁寧に行わせ、より多くの生徒が運動時間を確保できるような授業展開・授業での工夫が必要となってくると考える。

### 取組み

現在は、体育の授業において、ランニングや筋力トレーニングを毎回取り入れているが、体力・筋力に個人差があり、個々の能力に応じて、一つ一つの筋力トレーニングの回数、丁寧さを改善し、運動部に所属している生徒と所属していない生徒の効率を上げていきたい。

全校体制での体力向上に向けての取組みは行っていないため、スポーツテストにおける分析を元に、考えていく必要がある。

特に、学校全体の取組みにおいては、体力向上のため、朝食の指導などの、食育の面からの取組みを考える必要がある。